令和7年 第5回

教育委員会定例会会議録

とき 令和7年6月10日

品川区教育委員会

令和7年第5回教育委員会定例会

日 時 令和7年6月10日(火) 開会：午後2時
閉会：午後2時59分

場 所 教育委員室

出席委員 教 育 長 伊崎 みゆき
教育長職務代理者 吉村 潔
委 員 稲垣 百合恵
委 員 濱松 誠
委 員 吉原 幸子

出席理事者 教 育 次 長 米田 博
庶務課長 船木 秀樹
学務課長 石井 健太郎
指導課長 酒川 敬史
教育総合支援センター長 丸谷 大輔
教育施策推進担当課長 唐澤 好彦
特別支援教育担当課長 新井 正康
品川図書館長 三ッ橋 悦子
学校施設担当課長 荒木 孝太
統括指導主事 齊藤 隆光
統括指導主事 石原 朋之

事務局職員 庶務係長 安藤 尚之
書 記 田島 希望
書 記 羽田 優太

傍聴人数 1人

そ の 他 品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき、会議の一部を
非公開とした。

次第

- 第38号議案 教育事務事業調査（仮称）について
- 第39号議案 品川区文化財保護審議会委員の委嘱について
- 報告事項1 教職員の任免等について（休職）
- 報告事項2 市民科について
- その他 令和7年7月行事予定について

令和7年第5回教育委員会定例会

令和7年6月10日

【教育長】 ただいまから令和7年第5回教育委員会定例会を開会いたします。
署名委員に濱松委員、吉原委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。
初めに会議の持ち方についてですが、日程第2、報告事項1、教職員の任免等について（休職）、本件は人事に関する案件ですので、品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき、非公開の会議といたしますが、御異議ありませんか。

（「はい」の声あり）

【教育長】 異議なしと認め、本件については全ての日程の終了後に審議をいたします。
それでは、本日の議題に入ります。
日程第1、第38号議案、教育事務事業調査（仮称）について、本日は委員より御提案がありますので、御説明をお願いいたします。

濱松委員。

【濱松委員】 ありがとうございます。

1点提案があります。令和7年度から品川区教育振興基本計画を定めて、今後5年間の区の教育が目指すべき姿と方針が明確になり、計画的な教育施策の推進が必要であると認識をしております。

このことについて、今後PDCAサイクルに基づいた教育施策の充実等の目的に、教育委員会として、その事務がちゃんとうまくいっているか等の執行状況を調査確認し、各教育施策の実効性を高めていくことができると考えています。

具体的には、教育委員が指定する主要事業について、教育事務事業調査みたいな名前で、そして、年度内に複数、2から3のテーマを設定して、指定事業について事務局より事業の現状及び課題等について説明を頂き、教育委員会として議論を深めて、教育施策の質の向上につなげていくために必要となる調査を実施したいと、実査をお願いしたいと提案したいと思います。よろしくお願いいたします。

【教育長】 ただいま濱松委員より、教育事務事業調査（仮称）ですけれども、ということ、年度内に二、三テーマを設定して議論をしたいという御提案がありました。

これに対して、御質問や御意見はございますでしょうか。ほかの委員の皆様からは特になく、追加のお話でも。

吉村委員。

【吉村教育長職務代理者】 今、御提案がありましたように、事務事業について、教育委員会がやっている事業たくさんありますので、その事務事業についてスポットを当ててというか焦点を絞ってというか、理解を深めていくということは非常に重要なことだというふうに考えておりますので、今の御提案について、できる範囲でやっていければいいのかなというふうに思っております。

以上です。

【教育長】 ありがとうございます。ほかには。

稲垣委員。

【稲垣委員】 ありがとうございます。

私も教育事務事業の詳しい説明を頂いて、それに関して、私たちの学びも深めていかなければいけないと思いますし、よりよいものにしていくように話をし、さらに品川区の教育に貢献できればいいなと思いますので大賛成でございます。

以上です。

【教育長】 ありがとうございます。

ほかにはよろしいですか。

では、今の御提案について、採決したいと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 それでは、採決いたします。

第38号議案、教育事務事業調査(仮称)については、原案どおり可決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

【教育長】 では、異議なしと認め、本件は原案どおり可決することと決定いたします。

次に、日程第1、第39号議案、品川区文化財保護審議会委員の委嘱について説明をお願いします。

庶務課長。

【庶務課長】 私からは、第39号議案、品川区文化財保護審議会委員の委嘱について、御説明申し上げます。

資料1をお願いいたします。

品川区文化財保護審議会は、地方自治法に基づき設置をしている附属機関でございます。所掌事務は、教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存・活用に関する重要事項を調査審議し、これらの事項について、教育委員会に建議することとされております。

委員は10人で、そのうちの1人が、区議会議員からの選出をされております。

このたび、区議会議長から委員の推薦がありましたことを受けまして、品川区文化財保護条例第41条及び第42条第1項の規定に基づきまして、御推薦いただいた議員を品川区文化財保護審議会委員として委嘱するものでございます。

次ページをお願いいたします。

候補者は、品川区議会石田秀男議員でございます。

任期は、本日、6月10日から前任者の残任期間である11月30日まででございます。

説明は以上です。

【教育長】 説明が終わりました。

備考に再任とあるのですが、再任というふうな表現になるのでしょうか。前任がこしばさん。

【庶務課長】 そうですね。

【教育長】 前任の後を引き継ぐということですか。

【庶務課長】 ただいま申し上げました保護条例の第42条1項に、補欠委員の任期は前任者の残任期間とすると、また再任を妨げないという規定がございまして、そういった残任期間のところを担っていただくという意味での再任という表記になります。

【教育長】 分かりました。ありがとうございます。

説明が終わりました。質疑はございますか。よろしいですか。

では、品川区文化財保護審議会委員の委嘱について採決したいと思いますが、御異議ございませんか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 では、採決をいたします。

第39号議案、品川区文化財保護審議会委員の委嘱については、原案どおり可決することに御異議ございませんか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 では、異議なしと認め、本件は原案どおり可決することと決定いたしました。

次に、日程第2、報告事項2、市民科について、説明をお願いします。

教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 私からは、市民科について、御説明をさせていただきます。

教育委員会資料3、市民科についてを御確認ください。

では、前回の委員会の報告事項で、これからの市民科について御報告を差し上げましたが、今後、教育委員会で議論を深めていく上でも、改めて市民科立ち上げの背景などを御確認いただく必要がございますので、御報告を申し上げます。

本日は、区の独自教科である市民科について、創設の背景、コンセプト、学習内容など改めて説明する機会とさせていただきます。今後、改訂を見据えて、今年度より検討委員会も立ち上げてまいります。教育委員会内で、現状を共有して、今後の市民科について考えられる一助としていきたいと思っております。

次のスライドのほうを確認ください。

まず、市民科、創設された背景や狙いなどについて説明いたします。

次のスライドに行ってください。丸が3つ出ているところです。

まず、市民科とは、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間を統合し、設定した品川区独自の教科となっております。

市民科は、一貫教育や日常実践の観点から再構築されている別教科となるため、指導上、新たに意識していただく内容やポイントも出てきているところでございます。

スライドの4枚目のほうを御確認ください。

市民科は平成18年度から実施されてきましたが、その構想と計画は、平成14年から始まっております。当時の子供たちの課題や、統合しております各教科の実施状況、こうしたものを踏まえながら、現在の市民科につながる形で、平成18年度より市民科を実施してきているところでございます。

なお、各教科につきましても、この間、2度の改訂を経ておりますので、市民科につきましても、現在の社会環境や生活環境の変化に合わせた教育課題の単元をつくるなどして、変化・発展してきており、改訂を行っているところでございます。

ページの5枚目を御覧ください。

こちらは、市民科の現在の構成となっております。

市民科学習が、教科書を活用した小学校前期課程では45分、中学校後期課程では50

分の授業となっております。

次に、スライドの6枚目を御確認ください。

市民科の目標については、画面上のものが区立学校教育要領に設定されております。一言で言うなら、社会の形成者としての基礎的な倫理感・道德感を身につけ、常に自己変革を行うとともに、社会の発展に参画していく資質や能力を育むということです。

なお、市民科では、当初から、この7つの資質、5つの領域、15の能力、改訂により変更されているところはあるのですが、これを設定したところでやっております。

そうしましたら、7枚目のスライドを御確認ください。

こちらは、市民科における、7つの資質となっております。

市民科では、様々な資質の中から、社会の一員として自立し、社会に積極的に関わる中で自己実現を図るための資質として、画面のとおり、7つの資質を設定しています。この7つの資質は、具体的な行動実践の中で高まってまいります。この資質が発揮される場面、状況、条件として5つの領域を設定しています。

次のスライドを御覧ください。

これが画面上の5つの領域となっております。

画面左端の自己管理領域、人間関係形成領域、自治的活動領域、文化創造領域、将来設計領域となります。この5つの領域と画面上の右に設定されております15の能力については、個と内面、個と集団、個と社会という、個人から社会への関わりの段階も視点に入れて設定しているところでございます。

スライドの9枚目を御確認ください。

先ほど、市民科につきましても、2度改訂しているということを申し上げましたが、現在の区立学校教育要領には、画面上の内容が記載されています。

これは、これまでの実践の中で、こうした課題が見られたことを受け、児童・生徒が主体的に学び、自信を持って自分の考えを発表したり、その考えに基づいて行動したりできるよう、教え込みによらない指導の工夫を現在も周知しているところでございます。

スライドの10枚目を御確認ください。

ここからは、一貫プランについて、説明をさせていただきます。

では、スライドの11枚目を御覧ください。

特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間につきましても、市民科が創設された後、国のほうで2度改訂が行われております。その中で、各教科、内容が変更されたり、発展的な内容も行っているところでございます。

市民科も、この改訂を受け、平成22年の教科書改訂の際には、市民科学習の教科書単元そのものの改訂に加えて、指導の手引きにおいて、道徳資料の活用や話し合い活動の指導方法について詳しく掲載するなどの改訂がありました。

また、教科書単元とは別に、このとき学校プランという、現在の一貫プランの前身が新設されております。これは総合的な学習の時間を統合している品川区において探究的な学習を行うという狙いを含んだもので、各学校の特色ある教育活動を行うための時間であると当時説明しております。

スライドの12枚目を御覧ください。

この学校プランについては、当時は、3、4年生では10時間、5年生以上で20時間

を上限として各学校の特色ある活動を行ってまいりました。

スライドの13ページを御覧ください。

この学校プランにつきましては、学校の行事で活用されていたり、子供の学びがなかなか進んでいないというような課題もありましたので、今回の平成30年の改訂のタイミングで、より目標が実現されるように、学校プランに替わり、一貫プランが新設されることとなっています。

このとき、品川コミュニティ・スクールが導入されたこともあり、これまで各学校で実施していた特色ある教育活動についても、地域と学校がより強い連携を持って協働して行っていくことができるようになっております。各中学校区を基盤に、その地域の実態や特色を教育活動に反映させ、9年間を通して、地域の子供を地域で育てていくという考え方が一貫プランの構想に取り入れられています。

スライドの14ページ目を御覧ください。

ここまでが、現在の市民科学習と一貫プランについての説明となります。現在、既存の調査の中で、この市民科について振り返ることができる内容をここで御説明させていただきます。

まず、画面上につきましては、毎年実施しております保護者アンケートの結果になります。

市民科学習について、よい学習だと思うという問いを設定しております。現在、令和5年度まで判明しておるのですけれども、毎年、肯定的回答の割合は高い状況で調査の結果が出ているところでございます。

また、子供たちが毎年実施しております全国学力・学習状況調査結果、こちらの質問紙のほうも関連する設問がございますので、ここで御説明させていただきます。

資料飛んでしまうのですけれども、プレゼンの資料の後ろのほうに、この調査内容の資料が入っております。そちらを御確認いただけますでしょうか。少し時間を取ります。

【教育長】 別紙ではなくて。

【教育施策推進担当課長】 紙ベースは別紙でお渡しておるのですが、データではプレゼンの後に入っております。

【教育長】 紙ベースはありますか。

【教育施策推進担当課長】 42分の36になります。よろしいでしょうか。

こちらは直接的に市民科が統合する前の特別活動や特別の教科道徳、総合的な学習の時間について、学校質問紙、児童・生徒質問によって、その状況を問うているものとなっております。

1枚目、2枚目につきましては、学級活動、特別活動に関する設問となっております。

1つ目の特別活動に関する設問につきましては、学校質問紙では、おおよそ都や国と同等の値となっております。ポイントとして、マイナス0.7からプラス1.4の間となっております。児童・生徒質問では、肯定的回答の割合が都や国よりも高い値に、プラス3.0からプラス4.7となっております。

2つ目の特別活動の設問についてです。

学校質問紙では、肯定的回答の割合は、小学校前期課程では都や国よりも高い値、プラス5.3、プラス4.7となっており、中学校後期課程はほぼ同等な値、プラス0.9となっ

ています。児童・生徒質問では、肯定的回答の割合が国よりも高い値、プラス3.0からプラス4.3となっております。

一概な推察はできないのですが、話し合い活動については、国や都と比較しても、教員も子供たちも、おおむね良好な形ということが言えるかもしれません。

続いて、特別の教科道德に関する設問について、御覧ください。

学校質問では、肯定的回答の割合は、都や国よりも低い値、マイナス9.6からマイナス6.5となっております。児童・生徒質問では、肯定的回答の割合は、都や国よりも低い値、マイナス3.2からマイナス0.2となっております。

特別の教科道德に関するところ、自分の考えを深めたり、自分の課題として捉えること、自分事として捉えることにつきましては、この結果からは、都や国と比較して低位というようなことが推察されるかもしれません。

最後に、総合的な学習の時間に関する設問についてです。

学校質問では、肯定的回答の割合は、都や国よりも低い値、マイナス15.1からマイナス4.2となっております。児童・生徒質問では、肯定的回答の割合が、都や国と同等の値マイナス1.4からプラス1.7となっております。

学校質問、学校の捉えにつきましては、都や国よりも低くなっておりますが、児童・生徒の捉えとしては、都や国と同等のような形となっております。学校と児童・生徒について、その認識がやや乖離しているところがあるかもしれません。

なお、この設問でございますが、総合的な学習の時間や特別の教科道德、学級活動につきましては、市民科に読み替えて実施するという形で学校には周知しておりますので、そのような形で学校も理解して回答しているところでございます。

すみません。資料のほう戻りまして、スライドのほう2番、市民科学習の実際に戻っていただければと思います。

ここからは、この手引きに基づいて、市民科学習について、授業に近いような形で御説明ができればと思います。

スライド16枚目を御覧ください。

指導の手引きについては、54ページ、55ページを開いていただければと思います。

これは、54ページの「思いやりをもって人とかわろう」の単元となっております。単元名、領域・能力、各ステップの具体的な指導内容がこのように記載されているところでございます。

スライド17ページに移ってください。

このような項目は、他の項目についても同じレイアウトで提示されております。こちらでは、それぞれの単元において、単元の狙い、学習活動、時間の取扱い、これは参考になります。そして、留意点や関連評価、評価の観点、こちらを明記して、先生方が指導する際の参考となるようにしております。

スライド18ページを御覧ください。

先ほどの説明の中で、特別な教科道德の教科書を使用するという話もしておりましたが、この単元名の上の部分には、特別な教科道德の内容項目について、単元と関連があるものが示されています。

先生方は、特別な教科道德の教科書を使う際は、こちらの記載を参考に利用するような

ことが考えられます。

スライド19ページにお移りください。

単元の構成についてですが、市民科の大きな特徴の1つでもあります。それはこの5つのステップになります。把握、認識、習得、実践、深化、この5つのステップとなります。

全てのステップは相互関連しているので、どのステップも重要で学習から外すことはできません。特にステップ3から5については、市民科の学んだことを日常の実践に落とし込むという非常に大切な要素を手法として表したものとなっております。

スライドの20枚目を御覧ください。

具体的なこのステップに関連した学習について、説明をいたします。

まず、ステップ1把握は、例えば、教科書では子供向けに「どうしているかな」という問いかけの記載になっており、自分の生活や社会の状況を振り返り、課題を把握するという段階になります。

ステップ2認識は、教科書では「大切なこと」となっており、ステップ1で把握した課題をもとに話し合い、自分はどうすべきか、どう行動することが大切なのかという大切な価値や意義、判断基準を認識します。

ステップ3習得は、教科書では「やってみよう」です。ステップ2で認識した大切なことを日常生活でどのように実践していくか、具体的な方法について考え、スキルトレーニングや体験活動を通して練習し、習得していきます。

ステップ4実践は、教科書では「やっといこう」で、ステップ3で習得したことを実際に学校、家庭、地域などの日常生活の中で実践します。

最後に、ステップ5深化では、教科書では「まとめよう」となっており、これまでの学習や実践を振り返り、考えを深めたり、新たな課題を設定したりして、さらなる実践へとつなげていきます。

市民科では、ステップ1、2で学んだ大切なことを確かな実践につなげるために、ステップ3から5が設定されているところです。

スライド21ページを御覧ください。

こちらは市民科の評価の内容となっております。このような評価を実施した後、スライド22のほうを御覧ください。

通知表の記載においては、5つの領域について、身につけた能力の中から顕著なものを文章で記述することとなっております。

なお、指導要録の記載については、各領域で変容したこと、実践・活用について文章で記述することになっており、いずれの観点に偏ることがないように、毎学年で2、3の領域を選んで記録し、9年間の中で全ての領域について記述するようにしています。

スライド23ページを御確認ください。

次に、現在進めている探究的な学習の取扱いについて、御説明いたします。

スライド24ページ御覧ください。

こちらは、探究的な学習の必要性がスライドに書かれております。児童・生徒自身が自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題解決ができるとともに、自己の生き方を考えていくための資質・能力を身につけていく必要がある内容となっております。

スライド25ページを御覧ください。

こちらは、品川区の現在の教育パンフレットに記載されているイラストとなっております。市民科の資質・能力は、区の一貫教育の基盤として、明確に位置づけられており、また、グローバルに活躍する力や新たな価値を創造する力など、各教科・教科横断の中で学びを深めていく中で身につけていく力も説明されています。先ほどの背景と同様に、品川区においても、探究的な学習を進め、未来を切り開く力を持つ児童・生徒を育成していく必要がございます。

スライドの26ページを御覧ください。

これは現在の一貫プランの考え方となっております。各中学校区に応じて、その内容を設定しているところとなっております。

スライドの27ページを御覧ください。

こちらは、国の総合的な学習の時間の目標となっております。この総合的な学習においても、育成する資質・能力、目標や内容を各学校で定めることになっておりますが、市民科・一貫プランでは、区の基盤である一貫教育、中学校区の中でこれを検討していくこととなります。

スライド28ページを御覧ください。

こちらが、その背景となっております。

スライド29ページ御覧ください。

ここからは、探究的な学習の進め方となっております。

こちらに示されているものは、先ほど申し上げた総合的な学習の時間の学習指導要領解説の中に掲載されている内容となっておりますが、スライドの中の(1)から(4)、この探究のプロセスに基づいて実施していくことが肝要となっております。繰り返す内容ですね。この(1)から(4)を繰り返していくこと、これが必要となっております。

スライドの30ページを御覧ください。

こちらの探究的なプロセスを発展的に繰り返していくこととなりますが、この過程については、固定的に捉える必要はなく、ある活動が重点的に行われたり、順序が入れ替わったりすることも明記されているところです。

スライド31ページを御覧ください。

先ほど市民科の特徴である5つのステップを御説明申し上げましたが、現在、この市民科では、学習のステップについては、こちらで示しているAARサイクル、こちらのプロセスとの共通性が教育振興基本計画の中で示されたことを受け、探究的な学習と同じように、この循環型の学びを繰り返していくことで、一貫プランの中で探究的な学習を進めていく。このような形で、今年度、各学校で探究的な学習を進めていただいているところでございます。

雑駁な説明となりましたが、私からは以上となります。どうぞよろしくお願いいたします。

【教育長】 ただいま市民科について、説明がありました。皆さんから御質問とか、質疑、御意見いただければと思います。御質疑はございますか。率直に、ここがちょっとよく分からないといったような御質問でも結構です。

吉村職務代理者。

【吉村教育長職務代理者】 御説明ありがとうございました。非常によく整理されていて、私はよく分かりました。

改めて、市民科はよくできていると思うのですよね。要するに、学んだことを自分の生活や自分の生き方に生かしていくという、そのためのステップを踏む学習なのだということが、改めてよく分かるのですね。

非常に私はやはりこの市民科というのは意義があるなと思っているのですが、幾つか質問なのですけれども、13ページで、一貫プランについては、平成30年のタイミングで、改訂のタイミングで新設することになったと書いてあるのですけれども、この一貫プランのいわゆる各学校がつくるプランは、教育委員会としては、毎年度、例えば、教育課程届なんかのときに、提出をしてもらって、各学校がどんなプランをつくっているのかということをおよそ把握されているのかどうか。

もし把握されているとすれば、どんな内容が、今細かくは分からないと思うのですけれども、どんなカリキュラムになっているのかということをお教えいただきたいというのが、1つです。

それから、2つ目は、14ページのところで、市民科のこの間の反応というか、なかなか具体的なものを取っていなかったから、今回改めて調査をするのだというふうに認識はしていますが、この表にあるような、保護者はこういう簡単なものは今までも私も目にしていました。

先ほど、子供の全国学力調査を読み替えてやるという部分、これは私も初めて見聞きしたなと思っているので、もうちょっと分析が必要かなというふうに思っていますが、今回やりますけれども、教員については、あまり今までもやっていなかったという認識でいいのかどうかというのが、2点目の質問です。

それから、3点目は、これは21ページの市民科の評価のことが書いてあるのですけれども、この市民科学習の評価を「把握・認識」と「技能・行動・態度」の2観点で行うというふうにした何か背景というか、これをどのような経緯でこういうふうになったのかというのが、もし分かったら教えていただきたいなと、分からなければいいのですけれども、もし分かったら、なぜこの2つになったのかというのを知りたいなというふうに思いました。

取りあえず、以上です。

【教育長】 教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 御質問3点頂きました。

まず、一貫プランにつきましては、教育課程の補助資料という形で教育総合支援センターのほうで集めておりますので、内容については、一通り確認はしているところでございます。

その中で、具体例としまして、今話せることがあるとすると、やはり地域との連携の中で取り組んでいる内容であったりとか、あとは発展的に行事をつなげていくというような内容はあったという形で認識しているところでございます。

続いて、アンケートにつきましては、教員アンケートについては、全国学力・学習状況調査の学校質問というものが1つ、教員の見立てというような形では理解しているところでございます。

ただ、全体的にやったというような形では、過去のものを確認する中ではちょっと見られてないのですが、当時、小中一貫教育サミットという中で1つ、市民科のブースがあったときに、その関連で各学校の状況というようなものは確認していたというようなことはございました。

最後、3点目評価、「把握・認識」「技能・行動・態度」につきましての評価、この2つになった経緯というところが、すみません、詳しいところで今持ち合わせておりませんが、記述というようなどころになっているところにつきましては、統合する前の各教科などを参考にしながら、区のほうでも通知表へ記載をしているということで理解しているところでございます。

以上です。

【教育長】 吉村職務代理者。

【吉村教育長職務代理者】 ありがとうございます。

評価のことについては、その経緯がどういうことでこれになったのかなというのは、ちょっと自分としては知りたいことなのですね。というのは、この2つ目の「技能・行動・態度」というのが、行動と態度が1つになるのは分かるのだけれども、そこに技能がくっついてしまったという意味がどういう意味だったのかなというのを知りたかったと。

つまり、技能と態度はちょっと違うかなと、違う内容のことを1つの中に入れ込んだ何か理由があるのではないかなというふうに思ったので、お聞きしました。

それから、一貫プラン、教育課程届の中で補助資料として学校から出してもらっているということなのですが、今、先ほどの御説明で、この一貫プランは、探究的な学習の要素を入れ込んでいくと、探究的な学習は29ページに、今頂いた資料この29ページのスライドに探究的な学習についての定義のようなものが2点書いてあるのですね。

そうすると、ここの探究的な学習の定義に沿うような形でのプランはまだまだないということで認識しているのかどうか。そこをお伺いしたい。

【教育長】 教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 まず、評価についてでございますが、前回の改訂時、有識者等と話す中でこうした話題になっていたものと認識しておりますが、今後これから改めて検討会を開いていきますので、委員の御意見参考にしながら考えていきたいと思っております。

続いて、一貫プランについてですが、なかなか探究的な学習を進めるに当たり、時間数の設定等々、ここの書かれている意義について、堪えうるものというものがどれぐらいなのかということは今認識していないところでございますが、委員おっしゃったとおり、この定義を十分な形でやっていけるように、今年度の校長連絡会等でも改めてこのような内容を確認しているところなので、事例については、まず、これから各学校において出てくるものと思っております。

ただ、これまで研究指定校の中で各学校が取り組んできている内容もありますので、今年度もそうした研究指定校がございますので、事例につきましても、随時、お話しできる機会があれば、入れていければと思っております。

以上です。

【教育長】 ほかにございますか。

濱松委員。

【濱松委員】 ありがとうございます。

たくさんあって、どこからやろうかなと思います。1個だけ、考える時間をください。

改めて現場の先生方の声が全てではないものの、ごめんなさい、私が聞き逃したところもあるかもしれませんが、このアンケートだけではなくて、現場の先生が、たくさんあると思うのですが、校長から現場の方まで、若い方とか、あるいは区の固有教員とか、分かっている範囲で、本当にポジティブなところとネガティブでここを直してほしい、あるいは、ここがちょっとよくないのではないかというところがあれば教えてください。

【教育長】 教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 まず、こうした声をちゃんと取ってきていなかったというところが出発点で、これからしっかり取りたいという話は前回の説明で申し上げたとおりですが、実際話してみた中で、幾つかあるとすると、例えば、よい点であれば、教科書やステップなどが設定されているので、やりやすいという意見もあります。

一方で、同じ内容なのですけれども、そうしたものが示されているがゆえに自由性が無いというような意見もあります。両方に捉えられるような意見というのが1つあるところです。

あとは、吉村委員がおっしゃったとおり、行動まで結びつけて、行動変容にまでつなげるといった内容が、実に理にかなっているのではないかという御意見もあります。

あとは、やはり異動してくる先生方が市民科をまた一から考えるというところで、いろいろ変えやすい内容があるといいねという意見もあります。

今、現在、調査研究会の中で、そうした現場の意見も頂いておりますので、そちらも今後に向けて、取りまとめていければと思っております。

以上です。

【教育長】 よろしいでしょうか。ほかにはございますか。

稲垣委員。

【稲垣委員】 ありがとうございます。

すごくいい取組だと思って、やはり行動までつなげていくというのはすごく大事なことだと思いつつ伺っていたのですが、1点、9ページのところで、30年度の改訂で教え込みによらない指導の工夫を周知されたと思うのですが、その後、何か変化があったとかということ把握されている、教え込みではないものになったとか、そういうことがあれば教えていただきたいなと思います。

【教育長】 教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 まず、市民科以外の学習についても、この教え方というのは、習得型、活用型、探究型というところがあって、教員の教え方の課題としては、どの教科においてもあるという前提にはなってくると思います。

ただ、市民科の中では、先ほど申し上げた中でステップであるとか、こうした指導の手引きで、詳しく、こうした学習の流れが書いてあるところで、ついついそのままやってしまう先生方も今もいるのかなというところはあります。

ただ一方で、汎用性もある、自由にもやれるという統合しているよさもありますので、これは、今後、引き続き周知をして、先生方がそういう指導できるような形に持っていけ

ればと思っております。

以上です。

【教育長】 ほかにはございますか。

濱松委員。

【濱松委員】 ありがとうございます。

また1個だけ、渋谷区などが分かりやすいのですが、探究にかなり重きを置いていますと、1つ目の質問がやはり分かりやすいブランディング、マーケティング、周知の仕方、コミュニケーションの仕方、それは本当に小さいところ、細かいところと言うと、ウェブサイト、LPの作成から、大きいところと言うと、トップダウンでここにリソースだったり、アセットを使ってやっていこうという気持ちが、より現代はネット等も20年前に比べると発達しているの、より分かりやすい、しかも伝え方がうまいというところがあって、先ほども説明ありましたが、探究学習と言われるようなところをどう見ているのか。

どう見ているのかというのは、「いや、それも含んで市民科なのです」と言いながらも、いいことをしているのだけれども分かりづらい、あるいは壮大な、壮大だよねというところで、壮大といいことだけが必ずしも正しくないという世界もあるのも現実なので、何か渋谷区等の取組を含めて、どう思われているのかというところを、ちょっと教えてほしいです。

【教育長】 教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 スライドのまず25ページに区の教育の方向性のスライドがあったと思うのですが、やはり一教科の中では育てきれないと。例えば、ここに載っております「新たな価値を創造する力」であるとか「グローバルに活躍する力」というものを考えたときに、探究的な学習というものは我々も必要なところで、特に、今年度、よりそこを強調して、各校長連絡会等でお伝えしているところです。これが、まず1つあるのと、他区の取組については、教育というものは一元論になじむものではないですから、そうした取組を参考に見ながら、区の教育のほうに生かしていきたいと考えております。

以上です。

【教育長】 濱松委員。

【濱松委員】 ありがとうございます。

ちょっと答えづらいというか、お話しづらいところで申し訳なかったのですが、これは提案も半分あるのですけれども、壮大で、まず先進的かつ壮大で、目玉施策だと、この市民科というものがとなったときに、やはり1つは、評価、先ほど吉村さんからありましたし、皆様もそういうことも分かっているのだよと。

2つ目が、俗人さとか、この学校がうまくやっているねの脱却、つまり、どれだけ本部がサポートできるか、これ過保護と言われても徹底的なサポートがないと、「でも、ここまでやり過ぎだ」と「教員に考えさせればいいんじゃないか」ではなくて、ある種、ここまでは絶対やろうねの、要は行為平準化というかを徹底的に、トヨタではないのですけれども、徹底的にそこまで質を上げるというサポートを、徹底的に、本部が、事務局がする。教育委員会も介入とか邪魔ではなくて、「何がサポートだったらいいですか」というサポー

ト体制。

3つ目が、ごめんなさい、成果の可視化。評価にもつながると思うのですけれども、成果の可視化だと思っています。

4つ目が、これで最後なのですけれども、本当にキャリア教育とか、いわゆる探究学習といわれるものとか、VUCAといわれる時代の中で進んでいる中で、その時間数が足りない問題ということにかなりロックがかかっていると思っていて、それを挑戦されたのが、他区ばかり言ったらあれですけれども、渋谷区とか目黒区みたいなのが近いなと思っているのですが、それが正しいかは置いておいて。

なので、ごめんなさい。まとめると、品川区が先進かつ壮大で、目玉施策があつて、ばんとやるんだと言いながら、仮説としては、サポートが、ちょっと意見違うかもしれないのですけれども、足りないのではないかというところと。

4つ目、時間数が足りないとかというところのハックができていないのではないかとこのところがあるので、今言った4つの中の全部をやってほしいのですけれども、特に4つ目とか、何か本当に品川区は市民科に力を入れようとしていると、「いやいや、そしたら点数下がるじゃん」「内申点数下がるじゃん」みたいなのところがあるとしたら、「そこもこういうふうにサポートしているんです」「こうサポートしているんです」。

何か市民科だけと言ってしまうと、「市民科だけじゃないんだよ」という話に絶対なるのは分かりながら、品川区として比重をどこに置くかという、より重心はずらすという、今回、その改訂も試みもされるとは思っているのですけれども、そうしてほしいし、この時代なので、なので、そんなことを、ごめんなさい、思いました。

【教育長】 何かあれば。

教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 カリキュラム・オーバーの問題や、成果の可視化というのは、まさしくこれから検討委員会、調査研究会でも明らかにしていければと思っております。

特に、カリキュラム・オーバーのほうは、本当に〇〇教育というものが今増えてきている中で、品川区ではそれを市民科で引き取れる、他区においてはどこで引き取るのかという、また、違った課題もあるのかなと思いつつ、整理は必要だなというのは共通の認識だと思っております。

最後、サポートについては、区の独自教科という形で充実させていくためには、教育委員会のサポートというものは強力に必要なものだと認識しております。

以上です。

【教育長】 ほかにはございますか。

吉村委員。

【吉村教育長職務代理者】 すみません、1つだけ。

先ほどの29ページの「探究的な学習の取扱いについて」という、このスライドの探究的な学習の定義のようなもの、これはどこか国の文書から持ってきたということでしょうかという質問と、今後、市民科の中でこの探究学習をやっていくというときに、品川区としての探究学習という新たなこれをベースにしながらも、新たな定義みたいなものをつくっていくのか、それは検討委員会によるのかもしれませんが、そのあたり、質問と

今後のことについて、ちょっとお伺いしたい。

【教育長】 教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 29ページのスライドにつきましては、国の総合的な学習の学習指導要領解説のほうで載っている内容でございます。

区においては、このステップが、最後のスライドの31枚目のところで、AARサイクルとの関連性を教育振興基本計画で示したところなので、同じように回しながらやっていくというような形で、現在、学校には申し上げているところになります。

今後の在り方については、おっしゃるとおり、検討委員会等の中でまたこちらのほうも検討していければと思っております。

以上です。

【教育長】 区として、市民科の検討委員会にかかわらず、探究的な取組については、区としても話していきたいと考えているところです。今年から、一貫プランの中で各学校に考えてもらっていますので、それを踏まえて、どういう在り方が品川区らしさを追求できるのかなということも検討していきたいと思っています。

ほかにはありますか。

稲垣委員。

【稲垣委員】 ありがとうございます。

さっきの区のサポートという話にもつながるのですけれども、一貫プランとかも各学校でというところが結構大きくて、つまり各先生方のやらなければいけないこととか、先生方の力が必要なところがすごく大きいと思うのですけれども、市民科を運営するに当たっての教員向けの研修とか教育というのはどういうことをやられているのか、教えていただければと思います。

【教育長】 教育施策推進担当課長。

【教育施策推進担当課長】 現在の教員向けの研修については、まず、新任転任教員向けの研修、新任転任管理職向けの研修というものを、年度当初用意しています。

また、各学校には市民科推進教師を1名置いていただいていますので、この推進教師向けの研修については、1年間の中で実施していくような形を取っています。

教育委員会主催ではないのですが、教育会がございまして、先生方のそうした研究会の中で市民科部会ともというものもありますので、その中でも研さんを積んでいるというような状況があります。

以上です。

【教育長】 ほかにございますか。よろしいですか。

濱松委員。

【濱松委員】 すみません、何度も。ありがとうございます。

これまた検討委員会で検討されると思うのですけれども、前も申し上げたと思うのですが、渋谷区の探究フェスみたいな、ああいうものがこれから、あれは打ち上げ花火ではなくて、私は1つの見せ方として、今後、これ渋谷区だけではないのですけれども、いわゆる何々校での丸々発表会、授業発表会という形が、あれはあれであっていいと思うし、本当に素晴らしいものだ、私も見に行きたし、思うのですが、どうしてもその1つの学校に閉じがち、もちろん先生方も来ますけれども。

その1つの学校のいいところを見に来るので、先ほどの教育会ですか、とかもあるかもしれないけれども、やはり教育委員会が共催か後援か、私は主催でもいいと思っているのですが、それぞれの市民科、目玉ですから、市民科のそれぞれのいい事例や取組や、ある意味、プロコンスを出せるような探究フェスならぬ市民科サミット、市民科フェスみたいなところを、ちゃんとこれまであるのだったらリニューアルして大きくやっていく、ないのだったら、そういったものをまずは賛同してくれるところでやっていくというものをやって。

何が言いたいかというと、この内部だけで話し合う、あるいは校長と事務局、校長と教育委員1人、2人ではなくて、教育長だけではなくて、みんなで議論していく、みんなで作って上げていくというのも品川らしさだと思いますから、その要素をお金のかからないように考えることはできると思いますし、発表したら、やはりみんな、「よし、俺が」「私がやる」「私たちがやるぞ」ということになると思いますから、あまり悪いところ思い浮かばないので、その検討委員会でも、引き続き、改めて考えていただければと思います。提案です。

以上です。

【教育長】 ほかにはよろしいでしょうか。

では、市民科については、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 では、本件は了承いたします。

次に、日程第3その他、令和7年7月行事予定について、説明をお願いします。

庶務課長。

【庶務課長】 それでは、私から令和7年7月の行事予定について、御説明申し上げます。

資料4をお願いいたします。

7月につきましては、8日、22日、両日とも教育委員会定例会をともに14時から予定しております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

説明は以上です。

【教育長】 説明が終わりました。質問はございますか。

では、令和7年7月行事予定については、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 では、本件は了承いたします。

では、続いて非公開の会議を開きます。

— 了 —